

福祉のひろば

特集

第19回社会福祉研究交流集会in東海

「福祉職場の解体新書

～おもしろさを「科学」する～」

11
2013



ひろばトーク

名古屋市学童保育連絡協議会事務局長

かや

賀屋

てつお

哲男さん

学童保育指導員は地域を支える社会福祉の重要な担い手

編集 総合社会福祉研究所



住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21

<http://www.creates-k.co.jp>

クリエイツかもかわ



TEL 075 (661) 5741

FAX 075 (693) 6605

本体価格・送料何冊でも240円

マンション再生

二つの「若い」への挑戦

増永理彦◆著 本体1600円

建物の「経年劣化」と居住者の「高齢化」2つの「若い」への対応が再生のキーワード。住み続ける「リニューアール」に参加する「マンション再生3原則」と、「コミュニティ活動や生活支援、公的な介護サービス」の対応など、住み続けるための支援の充実に提記。



団地3部作 好評既刊

団地再生 公団住宅に住み続ける 本体2200円

UR団地の公的な再生と活用

高齢者と子育て居住支援をミッションに 本体2000円

●ロングセラーの定本出来！

子どものねがい
子どものなやみ
乳幼児の発達と子育て

改訂
増補版



白石正久◆著
本体2000円

第1部「乳幼児の発達と保育・子育て」。全体を通して文章表現を改め、加筆、いっそうわかりやすく読みやすくなりました。認識の発展により新たに第2部「障害のある人たちの発達保障のために」を書き下ろし。

釜ヶ崎のおっちゃんたちの背中

8月29日 恒例のたそがれコンサート 淀川工科高校吹奏楽部の演奏会

こぎ莫産は、持って帰ってもよいことになっている。野宿の方々へのプレゼント。
夕暮れの空に向かって、ファンファーレが響き渡る。年に一度の吹奏楽コンサート。
演奏する高校生は替わっても、聴いているおっちゃんたちは替わらない。
それをほほえましく見つめる人たちが今年も囲む。
そんなおっちゃんたちの背中を撮った。





背中を見ていると、なんだかおっちゃんたちのそれぞれの生きざまが見えてくるようだ。“ふるさと”の歌を何となく、くちずさみ、どこをみているのか焦点が揺れる。“UFO”や“上を向いて歩こう”も登場する。演奏が終わればその都度、遅れて拍手する。



かたわ
傍らに置いているワンカップの中身がなくなりかけている。毎日飲めるわけでもなく、仕事があるときとないときでも違う。それぞれが演奏に耳を傾け、黙ってうなづきながら。その顔を見ていると目が潤む。`来年も生きていてや……、



舞台に向かって近づくおっちゃんたち。突然踊り始める！ 自らの解放だ！ 演奏を邪魔するのもでなく、愚痴をこぼすわけでもない。突然のパフォーマンスに、高校生たちも普段とは違うこのステージの意味を知る。長年、淀川工科高校吹奏楽部を指導する丸谷明夫^{まるたにあきお}先生は、たそがれコンサートを「私たちの演奏の原点」と言われる。高校生たちは何を感じたのか。

おっちゃんたちが声をかけた。「来年もまた来てやー」

(写真・文 下野祇園)

●特集● 福祉職場の解体新書～おもしろさを『科学』する～
(第19回社会福祉研究交流集会 in 東海)

社会福祉研究の「危機」の深化と社会福祉研究交流集会の役割
 浜岡 政好 10

福祉職場の解体新書～おもしろさを『科学』する～ 長友 薫輝 14

【第1分科会】「困りごと」の真相をつかみ、
 社会的に解決していきたい 中野加奈子 19

【第2分科会】人と人との関わりが、その先の人生の支えとなり
 生きる力になる 結城 みほ 22

【第3分科会】社会福祉実践の研究運動の重要性を実感
 佐藤さと子 25

【第4分科会】介護保険制度「改悪」へ立ち向かうために
 内藤 智子 28

【第5分科会】「若手」で集まるってオモシロイ！ 北垣 智基 31

実行委員として企画づくりに関わって 藤原 佳子 35

●トピックス●

エ～ッ!? 特別支援学校に「設置基準」がない！ 申 佳弥 38

第18回合宿研究会 in 釜山（韓国）のご案内 48

●連載●

フォーラム

熱中症による死の背後にあるもの 河合 克義 52

連載 小川政亮 第二部 自伝 (20) 小川 政亮 54

金沢と暫しの別れ (下)

相談室の窓から 手厚いケアのある居住の場を (4) 青木 道忠 58

わらじ医者 早川一光の「よろず診療所日誌」 早川 一光 60

育つ風景 きな粉マカロニ 清水 玲子 62

いっばいっばの挑戦 (8)

公正な医療をすべての人に！ 繁澤 多美 64

映画案内 『希望の国』 吉村 英夫 66

現代の貧困を訪ねて 生田 武志 68

イギリスのホームレス問題を訪ねる (1)

なにわ銭湯見聞録 (七) ラッキー植松 70

いただきます！

カリッともちりちり 小豆とお餅の包み揚げ 高鷲保育園 72

私の研究ノート 横尾 昌弘 74

社会的な不平等に抗する研究と実践を

ホームレスから日本を見れば ありむら潜 76

花咲け！男やもめ 川口モトコ 77

●表紙の絵●

神門やす子



●カット●

川本 浩

学童保育指導員は 地域を支える社会福祉の 重要な担い手

名古屋市学童保育連絡協議会事務局長

かや
賀屋

てつお
哲男さん

私は以前、電気関係の営業などの仕事をしていましたので、「福祉といえば保育かなあ」というくらい福祉のことを知らない人間でした。

しかし、二〇年ほど前に、学童保育の存在と制度が確立していないことを知り、社会福祉をより詳しく学ぶきっかけになりました。学童保育の実態を知るにつけ、子どもに責任を持つには、児童福祉だけではなく、しょうがい、地域、家族、社会の分野・領域についても理解を深めるべきだと日々感じるようになり、「福祉のひろば」と出会いました。

福祉のひろば、総合社会福祉研究所との出会い

北海道夕張市で開催された視察に参加して以降、研究会や社会福祉研究会交流集會に日程が許す限り参加し、社会福祉の学習や実態に触れる体験をさせてもらっています。

夕張視察では、国のエネルギー政策転換によって「炭鉱」が廃坑となり一変した夕張市の歴史と現状を自分の目で見て、実体験する重要さを痛感しました。昨年の福島での社会福祉研究交流集會では、福島第一原発の放射線汚染への対応を怠る電力会社（東電）、国の実態を知りました。そして今年一月の沖縄での合宿研究会で米軍基地と福祉の実態を見聞きしたことは、私の学童保育の関わり方に重要な意味づけを与え、広げてくれました。

学童保育は、一九九七年に児童福祉法に初めて明記された新しい施策です。新しいから保育施策の基本をしっかりと備えたものかといえば、そうではありません。法律に明記される以前から、多くの自治体が独自に事業を実施していました。しかし「小学生なら一人で留守番できる」「放課後だけの短時間の保育だから」という理由で学童保育指導員の処遇は（有償）ボランティア、パート労働が多く、児童福祉法に明記されても、処遇は自治体



かや てつお

国鉄を皮切りに電気関係の営業など社会福祉とは異なる仕事を経験した後、2001年から名古屋市学童保育連絡協議会の専従となり、今に至る。しょうがいのある子どもに関わりNPO法人を立ち上げる等、子どもに関わる活動に多く携わっている。第19回社会福祉研究交流会in東海実行委員。

独自事業の頃の悪条件をそのまま国の補助金規定に横滑りさせたに過ぎないものでした。

また、当時は「学童保育」ということは世間に広く知られていないため、人に説明する場合、一から話をしないとイケないということが常でした。学童保育を知らせる、学童保育指導員の仕事を説明することから、学童保育拡充運動を進めていったのです。

学童保育が広く認知され、専門性や役割も発展している

今では「学童保育」という呼称は多くの方に知られ、重要な施策だと認められるようになり、一九九七年の時とは隔世の感があります。学童保育の役割も、「保護者の就労保障」から「子どもの発達保障」、「家族援助」と発展し、今では「地域福祉の支え手」も兼ねていると思っています。「保護者が仕事から戻ってくるまでの子どもの居場所の提供」という現実は未だありますが、全体として、学童保育指導員は地域を支える社会福祉の重要な担い手であると思っています。

社会福祉研究交流会in東海に関わって

今回、総合社会福祉研究所から東海集会実行委員会へのお誘いがあり、現場の声や実態を理論化していくことの大切さを確認することができたという思いから、実行委員として関わりました。この集会は、実行委員に研究者が多いことが特徴です。落ち着いて淡々と進む会議は異質のものである一方で、「これだけの打ち合わせでも準備ができるんだ！」と他の集會に活かせると感じました。社会福祉の幅広さと同様、この集會もいろいろな可能性を持っていることを改めて感じさせてもらいました。次の集會が楽しみです。

特集

第19回社会福祉研究交流集会in東海

「福祉職場の解体新書」 「科学」する

＊概括を掲載するにあたって＊

特集は、名古屋市内の愛知大学で八月三十一日・九月一日に行われた第一九回社会福祉研究交流集会を概括します。参加できなかったみなさまにも、集会でのエッセンスを共有していただければ幸いです。

毎年集会が終わると、年末の慌ただしい時期から翌年の集会準備に本格的に入ります。今回の集会は、若手研究者、労働組合、福祉系団体、事業者連絡会等の方々の奮闘で準備され、特に地元愛知の保育関係者の参加が際立ちました。毎年この集会に参加するのを楽しみにしているという参加者も多くおられます。集会の概括を参加者の声を交えて紹介しますので、お読みください。

昨年から今年にかけ、社会福祉をめぐる情勢が大きく変化してきました。国民の代表とは思えない方々が検討されてきた「社会保障制度改革国民会議報告書」。そこで打ち出されているのは「日本の社会保障」の近未来像なのででしょうか。この未来像さえも、アベノミクスの消費税増税が、社会保障財源でなく大企業優遇の対策に大きく変貌し（それが本音だったのか）、国民にはわずかに見えた鉛さえ無く、鞭だけとなりました。低所得対策を